

令和 7 年度

自家用電気工作物保安管理等業務委託

特記仕様書

岡山県広域水道企業団

目次

第1章 共通事項

第1節	適用範囲 2
第2節	委託概要 2
第3節	履行場所 2
第4節	一般事項 2

第2章 委託内容

第1節	保安全管理業務 5
第2節	年次点検業務 6
第3節	保安教育 7

第1章 共通事項

第1節 適用範囲

本仕様書は、自家用電気工作物保安管理等業務委託に適用するものである。

第2節 委託概要

本委託業務の内容は岡山県広域水道企業団自家用電気工作物保安規程（以下「保安規程」という。）に基づく自家用電気工作物の保安管理業務と一般電気工作物の年次点検を行うものである。

第3節 履行場所

委託を行う対象施設は別表1のとおりとする。

第4節 一般事項

第1条 法令の遵守

- 1 受注者は、保安管理作業にあたり、関係する法令、条例、規則等（以下「関係法令」という。）を遵守すること。
- 2 受注者は、資格等（資格、検定、認定等）を必要とする作業にあたり、当該資格等を有するものに行わせること。
また担当職員が要求した場合は、資格保有者である証書の写しを提出すること。

第2条 基本事項

- 1 この保安管理業務委託は、契約書、仕様書及び図面に基づいて行う。
仕様書及び図面に明示されていない事項であっても、保安管理業務の性格上、当然必要なものは受注者で対応すること。

第3条 用語

- 1 この仕様書で使用する用語の定義は次による。
 - (1) 保守とは、機器の必要とする性能又は機器を維持する目的で行う消耗部品又は材料の取替、注油、汚れ等の除去、部品調整等の軽微な作業を行う。
 - (2) 点検とは、機器の機能及び劣化の状態を調べることをいい、機器の機能に異常又は劣化がある場合は、必要により対応措置を判断することを含む。
 - (3) 調整とは、機器の状態を、指定された性能、仕様等に適合するように整えることをいう。
 - (4) 技術的評価とは、機器の劣化や摩耗等について状況を評価し、機器の機能維持に必要な措置や機器の寿命等を判断することをいう。
 - (5) 関係法令等とは、河川法、計量法、建築基準法、消防法、高圧ガス保安法、水道法、騒音規制法、電気事業法、電波法、電気通信事業法、道路交通法、道路法、労働安全衛生法、労働基準法、その他関係する法令、条例及び規則をいう。

第4条 提出書類

受注者は、業務委託一般仕様書第43条第1項から第3項に記載のものの他に指定する期日までに契約書に関する書類のほか次の書類を担当職員に提出する。ただし、保安管理内容により担当職員が別途、他の書類の提出を求める場合もある。

提出する書類の大きさは、すべてA4判にて編集すること。

提出書類一覧表

提出書類	提出期限	提出部数	備考
保安業務担当者等届出	契約後7日以内	1	※1
緊急連絡先通知書	〃	1	
保安業務担当者経歴書	〃	1	
保安業務担当者等健康診断書	必要の都度	1	
月次点検予定表	契約後速やかに	1	※2
業務実施報告書(Excel・PDFデータ)	点検終了後速やかに	1	※3

※1：保安業務担当者等を書面で定め提出すること。ただし、企業団が不相当と認めた場合は、改めて選任すること。

※2：作業前にあらかじめ点検月を決め担当職員に提出し、その承諾を受けなければならない。

※3：過去の点検結果表は Excel データ形式で、受注者に貸与する。
委託に関する写真は機場ごとにインデックス等を付け見やすくすること。

第5条 安全管理

- 1 受注者は、保守点検作業にあたり、関係法令等を遵守し労働災害、公衆災害等の防止に必要な措置を講じ、常に安全管理に努めること。
- 2 受注者は、保安点検業務にあたり、酸素欠乏危険箇所及び薬品等の漏洩が予測される箇所、高所、地下並びに道路上での作業、その他、特に危険が予想される箇所では事故防止に努めること。
- 3 受注者は、火気を使用する場合、十分な防火措置を講じること。

第6条 衛生管理

- 1 受注者は、水道施設構内又はその付近での保守作業にあたって、関係法令を遵守し、衛生管理に十分注意すること。
- 2 受注者は、企業団の指示がある場合、保守点検従事者について保健所等の検査資格を有する機関の発行した健康診断書（腸内細菌検査）を提出すること。
- 3 保守点検作業の期間中は、現場の整理・整頓に努め適切な作業環境を保持すること。
- 4 作業完了に際しては、当該業務に関する部分の後片付け及び清掃を行うこと。

第7条 作業時間

保守点検作業時間は、原則平日の8：30～17：00に行うこと。また、年次点検等の停電作業は原則下記の時期に行うこと。時期外等に作業を行う場合は、事前に企業団の承認を得るものとする。

なお、各施設の停電可能時間は、次のとおりとする。

点検作業場所	作業日	実施時期	1日あたりの停電時間
岡山浄水場(全停電作業日)	休日	第3四半期	4時間以内
総社浄水場	平日	第1四半期	3時間以内
各中継ポンプ場	平日	第3四半期	2時間以内

第8条 保守点検用具類

保守点検用工具類及び消耗品は、原則として受注者が持参したものを使用すること。

ただし、当該機場にあるリフターその他専用工具等を必要とする箇所の点検については、企業団が保管する工具を貸与可能とする。

第9条 保守点検作業用電力

保守点検作業用電力は、原則として企業団から支給するが、停電作業により電源が喪失されている場合は、受注者が発電機等を用意して使用すること。

また使用に際しては、担当職員からの承諾を得て使用し、施設の運転管理に支障を与えることのないように十分注意すること。

第10条 損傷部補修

受注者は、保安全管理作業に際し、建造物機器等を損傷しないように十分注意すること。

損傷した場合は、担当職員の指示に従い同等以上の資材をもって速やかに復旧を図ること。

なお、復旧に要する費用は、すべて受注者の負担とする。

第11条 臨機の措置

災害又は公害並びに波及事故が発生した場合、速やかに適切な処置をとり、ただちにその経緯を担当職員に報告すること。

第12条 官公署その他への手続き

必要な届出、手続きはあらかじめ担当職員に関係書類を提出し、その承諾を得た後、受注者が、これを代行すること。またこれらに要する費用等は特別に発注者が指示、指定したもの以外は全て受注者の負担とする。

第13条 費用負担

委託期間中に受注者が緊急対応を行った場合は、それにかかる経費及び材料費について、協議の上、事後精算する。

第14条 一括再委託の禁止

受注者は、業務の一部を一括して第三者に委任し、又は請け負わせてはならない。

第15条 再委託の事前承諾

- 1 受注者は、業務の一部（「主たる部分」を除く。）を第三者に委任し、又は請け負わせようとするとき（以下「再委託」という。）は、発注者の承諾を得なければならない。なお再委託の内容を変更しようとする時も同様とする。

ただし軽微な部分を委任し、又は請け負わせたときは、この限りではない。

- 2 発注者は、前項に規定する承諾の申請があったときは、原則として契約額の3分の2以内での業務の一部を第三者に委任し、又は請け負わせてようとする場合に限り、承諾を行うものとする。ただし、業務の性質上、これを超えることがやむを得ないと発注者が認めたときは、この限りではない。

第16条 疑義

本仕様書に明記されていない事項及び本仕様書に疑義が生じた場合は、協議して指示に従うものとする。

第17条 雑則

受注者は、本仕様書に明記されていない事項であっても、当該業務遂行上当然必要な業務は、良識ある判断に基づいてこれを行わなければならない。

第2章 委託内容

第1節 保安全管理業務

第18条 保安全管理業務内容

- 1 受注者が実施する保安全管理業務は、次の各号により、保安規程に基づき電気工作物の保安全管理業務を実施する者（以下、保安業務担当者という。）が自ら実施するものとする。
 - (1) 電気工作物の維持及び運用について、定期的な点検、測定及び試験を行い、その結果を報告するとともに経済産業省令で定める電気設備に関する技術基準を定める省令（以下「技術基準」という。）の規定に適合しない事項又は適合しないおそれがあるときは、とるべき措置について発注者に指示又は助言すること。
 - (2) 電気事故その他電気工作物に異常が発生又は発生するおそれがある場合において、発注者もしくは中国電力株式会社等より通知を受けたときは、事故原因を探し、応急措置を指示し、再発防止につきてるべき措置を指示又は助言するとともに、必要に応じて臨時点検を行うこと。
 - (3) 電気事業法第106条の規定に基づく電気関係報告規則に定める電気事故報告を行う必要がある場合は、事故報告を行うよう指示するとともに、事故報告の作成及び手続きの助言を行うこと。
 - (4) 電気事業法第107条第3項に規定する立入検査の立ち会いを行うこと。
 - (5) 委託された電気工作物の工事、維持及び運用に関する中国四国産業保安監督部長への提出書類及び図面について、その作成及び手続きの助言を行うこと。
 - (6) 委託された電気工作物の設置又は変更の工事について、設計の確認及び竣工検査を行い、改善等必要な措置について発注者に指示又は助言すること。
 - (7) 委託された電気工作物の設置又は変更の工事について、発注者の通知を受けて、別紙1に定める自家用電気工作物の保安全管理業務委託点検要領（以下「点検要領」という。）に定めるところにより、工事期間中の点検を行い、その結果を報告するとともに技術基準の規定に適合しない又は適合しない恐れがあるときは、そのとるべき措置について発注者に指示又は助言すること。
- 2 前項の規定にかかわらず、受注者に委託する保安全管理業務のうち、次の各号のいずれかに該当する電気工作物については、受注者の監督の下で点検が行われ、かつ、その記録が受注者により確認されるものに限り、発注者は点検、測定及び試験の全部又は一部を電気工事業者、電気機器製造業者等に依頼して行うことができる。
 - (1) 設備の特殊性のため、専門の知識及び技術を有する者でなければ点検を行うことが困難な電気工作物
 - (2) 設置場所の特殊性のため、受注者が点検を行うことが困難な電気工作物
 - (3) 事業場外で使用されている可搬型機器である電気工作物
 - (4) 発電設備のうち電気設備以外である電気工作物
- 3 使用機器及びそれに付随する配線器具等については、第1項によるほか、発注者が確認を行うものとする。

第19条 点検の頻度

第18条第1項に定める受注者が定期的に行う点検内容は別紙1に定める「点検要領」によるものとし、点検の頻度は次のとおりとする。

- 1 月次点検 毎月1回
- 2 年次点検 毎年1回
- 3 臨時点検 必要の都度

第20条 連絡責任者等

- 1 受注者は、電気工作物の工事、維持及び運用に関する保安のための巡視を行う者を定めるとともに、この契約の履行に関して発注者と連絡する連絡責任者を定めて、その氏名、連絡方法等を発注者に通知するものとする。

- 2 受注者は、前項の連絡責任者に事故がある場合は、その業務を代行させるため代務者を定め、ただちにその氏名、連絡方法等を委託者に通知するものとする。
- 3 受注者は、前各項に変更が生じた場合は、ただちに発注者に通知するものとする。

第 21 条 協力及び義務

- 1 発注者は、受注者が保安全管理業務の実施にあたり、受注者が指示又は助言した事項又は受注者と協議決定した事項については、すみやかに必要な措置をとるものとする。
- 2 受注者は、保安全管理業務を誠実に行うものとする。

第 22 条 保安業務担当者の資格等

- 1 受注者は、委託された電気工作物の保安全管理業務を実施する保安業務担当者には、電気事業法施行規則に適合する者をあてるものとする。
- 2 保安業務担当者は、原則として保安全管理業務に従事する資格を有する証を常に携行し、委託者の求めに応じ提示することとする。
- 3 保安業務担当者は、必要に応じ他の保安業務担当者（以下「保安業務従事者」という。）に、保安全管理業務の一部を実施させることができるものとする。
- 4 保安業務担当者並びに保安業務従事者は、必要に応じ補助者を同行し、保安全管理業務の実施を補助させることができるものとする。
- 5 保安業務担当者を明確にするため、受注者は、前各項で定める保安業務担当者並びに保安業務従事者の氏名及び生年月日並びに主任技術者免状の種類及び番号を、受注者の事業所への連絡方法とともに、書面をもって発注者に通知し、発注者は面接等により本人の確認を行うこととする。
なお、保安業務担当者等の変更を行う必要が生じた場合にあっても同様とする。

第 23 条 記録の保存

発注者は、受注者が実施し報告した保安全管理業務の結果の記録（保安全管理業務を実施した保安業務担当者の氏名を含む。）等を確認するとともに、発注者、受注者双方において3年間保存するものとする。

第 2 節 年次点検業務

第 24 条 試験要綱

試験要領は、次の各号に掲げるとおりとする。

- 1 保護継電器保安試験
 - (1) 継電器試験の設定値は、次に掲げるとおりとする。

・不足電圧継電器	設定値の 70%	
・過電流継電器	200%、300%、500%、700%	(瞬時要素付は、瞬時を行う)
・無効電力継電器	〃	(瞬時要素付は、瞬時を行う)
・過電圧継電器	120%	
・地絡継電器	130%、400%	(瞬時要素付は、瞬時を行う)
・地絡方向継電器	130%、400%	(瞬時要素付は、瞬時を行う)
・2E、3E 継電器	200%、500%	(瞬時要素付は、瞬時を行う)
 - (2) 過電流継電器は、試験電流に最も適する補償抵抗値を使用し、測定する。
 - (3) 測定データからの特性グラフを添記すること。また動作領域も明記する。
 - (4) 各保護継電器について対象遮断器が保護継電器の各動作によりトリップすることを確認する。
 - (5) 6.6kV 受電PASについては、模擬信号によりPASの過電流ロックが動作することを確認する。
- 2 接地抵抗測定試験
 - (1) 接地抵抗計を用いて測定する。

- (2) 接地対象機器が、建造物その他接地金属体に電氣的に接続されている場合は、接地線を対象機器から外し試験を実施する。
- 3 絶縁抵抗測定試験
 - (1) 低圧の電路及び機器の測定は、低圧用絶縁抵抗計(400V 回路においては、500V 用。200V では、250V 用/500V 用)を、高圧は、高圧用の絶縁抵抗計(1000V 用)を用いて測定する。
 - (2) 絶縁抵抗測定は、各機器の清掃終了後に行う。
 - (3) 高圧機器及び配線は、一括にて測定する。
 - (4) 高圧ケーブルは、各線心と対地間を測定する。
 - (5) 変圧器 2 次側より各主幹盤までと対地との間を測定する。この場合、第 2 種接地線を外して測定する。
 - (6) 受電設備の低圧主幹盤の各開閉器より、使用設備の最初の分電盤までの電路の電線と対地間について開閉器ごとに測定する。
- 4 ケーブル劣化診断
 - (1) 印加電圧を 5,000V と 10,000V 印加し、絶縁抵抗を測定する。
 - (2) 絶縁物の「電流－時間特性」から絶縁の良否を判定する。
 - (3) 充電状況を記録する。
- 5 遮断器及び保護試験装置動作試験
 - (1) 各遮断器の保護継電器が動作することにより、トリップすること及び警報が正しく発報することを確認し、保護装置、連動シーケンスの良否を判定する。

第 25 条 点検内容

- 1 点検内容は、外部精密点検及び清掃をいう。
 - (1) 外部精密点検及び清掃は、次に掲げる機器について行う。
 - ア 引込柱廻り (P A S、避雷器、ケーブル等)
 - イ 遮断器、開閉器、接触器
(遮断器は引き出してクリップの強度点検、絶縁抵抗測定を行う。)
 - ウ 変圧器
 - エ コンデンサ
 - オ その他電気保安管理上必要な機器
 - (2) 清掃は、ウエス、刷毛等を使用して行う。前号に定めるもののほか、電気室内及び当該盤内についても掃除機等を使用し行う。
 - (3) 点検中において、事前に係員が指示した盤内蛍光灯 (支給品) は、取り替えること。
 - (4) 点検中において、盤内フィルター等損傷したものがあつた場合、速やかに報告し、在庫品と取り替えること。
- 2 点検・清掃は、別表 2 とおりとするが、詳細については、担当職員と協議し決定すること。

第 3 節 保安教育

第 26 条 保安教育

受注者は発注者と協力し、電気工作物の工事、維持及び運用に従事する者に対して、電気工作物の保安業務に関する必要な事項について教育を行うものとする。

第 27 条 保安に関する訓練

受注者は発注者と協力し、電気工作物の工事、維持及び運用に従事する者に対して、災害その他電気事故が発生した場合の措置について必要に応じて演習訓練を実施するものとする。

提出書類一覽表

[illegible]

◎保安管理業務対象施設

名称		住所	需要設備		非常用予備発電装置		備考
			設備容量	受電電圧	定格容量	定格電圧	
【自家用電気工作物】							
南部系	岡山浄水場	岡山市東区寺山650	5,855KVA	6,600V	—	—	
	山陽中継ポンプ場	赤磐市日古木523	500.6KVA	6,600V	—	—	
	山陽第2中継ポンプ場	赤磐市下市729-3	151KVA	6,600V	—	—	
	赤坂中継ポンプ場	赤磐市北佐古田字奥1214	151KVA	6,600V	—	—	
	瀬戸中継ポンプ場	岡山市東区瀬戸町宗堂字新田131-3	151KVA	6,600V	—	—	
北部系	久米中継ポンプ場	津山市久米川南46-3	150.1KVA	6,600V	—	—	
	中央中継ポンプ場	久米郡美咲町打穴上131-2	150.1KVA	6,600V	—	—	
	津山中継ポンプ場	津山市福田989-3	200.1KVA	6,600V	—	—	
	奈義中継ポンプ場	勝田郡奈義町高円1246	200KVA	6,600V	—	—	
西部系	総社浄水場	総社市井尻野504-1	1862.5KVA	6,600V	—	—	
	総社第1中継ポンプ場	総社市榎谷2657	796.75KVA	6,600V	—	—	
	総社第2中継ポンプ場	総社市久代2551-4	203KVA	6,600V	—	—	
	総社第3中継ポンプ場	総社市新本4959-12	303KVA	6,600V	—	—	
	賀陽第1中継ポンプ場	加賀郡吉備中央町岨谷2152-5	796.75KVA	6,600V	—	—	
	美星第1中継ポンプ場	井原市美星町宇戸1355-4	303KVA	6,600V	—	—	
	美星第2中継ポンプ場	井原市美星町宇戸1127-16	303KVA	6,600V	—	—	

◎年次点検対象施設

◎平次黒根対策施設

名称	住所	需要設備		非常用予備発電装置		備考
		設備容量	受電電圧	定格容量	定格電圧	
【一般用電気工作物】						
南	吉井中継ポンプ場	赤磐市八島田1580				
	佐伯第1中継ポンプ場	和気郡和気町矢田1072-9				
	佐伯第2中継ポンプ場	和気郡和気町南山方259-5				
北	鏡野中継ポンプ場	苫田郡鏡野町真加部392-2				
西	賀陽第2中継ポンプ場	加賀郡吉備中央町岨谷8-4				
	賀陽第3中継ポンプ場	加賀郡吉備中央町上竹3823-1				

各施設の図面や設置機器については添付資料参照のこと。

◎保護具等点検員数

保護具等の名称	点検員数（南部）	点検員数（北部）	点検員数（西部）
電気用ゴム手袋	1	1	1
電気用ゴム長靴	1	1	1
検電器 (最小動作電圧測定含む)	2	1	2
操作用フック棒	7	4	4
短絡接地器具	1	1	2
絶縁抵抗計 (校正試験)	3	1	3

保護具等の点検は、上記点検対象施設に設置してあるものを持ち帰り行うこと。

自家用電気工作物の保安管理業務委託点検要領

1. 受注者は、発注者の保安規程に基づき、発注者が設置する自家用電気工作物の保安管理業務について、次の各号に掲げるとおりとし、その結果について発注者に報告を行う。報告を受けた発注者は、その記録（保安業務担当者の氏名を含む）を確認及び保存するものとする。

また、技術基準に適合しない事項がある場合は、必要な指導又は助言を行う。

- (1) 電気工作物の維持及び運用が適正に行われるよう、定期的に行う電気工作物の点検、測定及び試験（以下、定期点検をいいます。）
- (2) 電気事故発生時等の応急措置（現状確認、送電停止、電気工作物の切り離し等）の指示及び事故原因探求への協力並びに再発防止のための対策への指示又は助言、及び状況に応じて実施する臨時点検
- (3) 中国四国産業保安監督部長への提出書類及び図面について、その作成及び手続きの助言
- (4) 法令に基づく立入検査への立会い
- (5) 電気工作物の設置又は変更の工事について、設計の審査、工事期間中の点検及び試験
- (6) その他、乙がこの契約を履行するために必要な事項

2. 前項第1号に定める定期点検の種類及び頻度は別表「点検基準」のとおりとし、技術基準への適合状況の確認を行う。

3. 第1項第5号に定める工事期間中の点検は、別表「点検基準」に定める外観点検を行い、電気工作物の施工状況及び技術基準への適合状況の確認を行う。

4. 保安業務担当者が、保安規程に基づき、保安管理業務を自ら実施する。ただし、次の(1)から(4)までに掲げる電気工作物であって、保安業務担当者の監督の下で点検が行われ、かつ、その記録が保安業務担当者により確認されているものに係る保安管理業務については、この限りではない。

- (1) 設備の特殊性のため、専門の知識及び技術を有する者でなければ点検を行うことが困難な電気工作物
 - ① 消防法の規定に基づき、消防設備士免状の交付を受けている者等の点検を要する消防用設備等又は特殊消防用設備等
 - ② 労働安全衛生法の規定に基づき、検査業者等の検査を要することとなる機械
 - ③ 機器の精度等の観点から専門の知識及び技術を有する者による調整を要する機器
 - ④ 内部点検のための分解、組立に特殊な技術を要する機器
- (2) 設置場所の特殊性のため、乙が点検を行うことが困難な電気工作物
 - ① 立入に危険を伴う場所（酸素欠乏危険場所、有毒ガス発生場所、高所での危険作業を伴う場所、放射線管理区域等）
 - ② 情報管理のため立入が制限される場所（研究室、金庫室、電算室等）
- (3) 事業場外で使用されている可搬型機器である電気工作物
- (4) 発電設備のうち電気設備以外である電気工作物

5. 別表2「点検基準」に記載する事項のうち、主要な事項の取扱いは次のとおりとする。

- (1) 月次点検は、電気工作物の運転を停止しない状態で目視等により実施する。ただし、設備の状況により、運転を停止して点検する。
- (2) 年次点検は、停電により設備を停止状態にして1年に1回以上実施する。
- (3) 定期点検のための執務時間は、別表「点検基準」の各項目について実施し、かつ、その結果取るべき措置の指導、助言を行うために必要な時間とする。

(4) 定期点検時には別表「点検基準」に記載の点検のほか、発注者に、日常巡視等において異常等がなかったか否かの問診を行い、異常等があった場合は、保安業務担当者としての観点から点検を行う。

点検、測定及び試験の基準等

対象	項目	月次点検【1回／月】		年次点検			
		点検箇所、ねらい	試験・測定	周 期	点検箇所、ねらい	周 期	試験・測定
引込関係	支持物等	損傷、汚損、腐食、たるみ、ゆるみ、傾斜、腐朽、脱落、外れ、異物付着、腐食、亀裂、支持点間隔、敷設部の無断掘削、接地線の腐食・断線・外れ		1年	ハンドホール・マンホールの浸水、地盤沈下の影響	1年	接地抵抗測定
	電線、ケーブル	電線等の高さ・他物との離隔距離、標識、ヘッド・接続箱・分岐箱など接続部の過熱による変色、損傷、腐食、汚損、コンパウンド油漏れ、亀裂、接地線の腐食・断線・外れ		1年	接地線接続部のゆるみ	1年 1年	絶縁抵抗測定 接地抵抗測定
	負荷開閉器	損傷、変形、腐食、開閉表示、操作紐の取付状態、異物付着、亀裂、汚損、接続箇所の過熱による変色、制御装置箱施錠確認、接地線の腐食・断線・外れ		1年 1年	接地線接続部のゆるみ 開閉操作・表示確認	1年 1年 1年 1年	絶縁抵抗測定 接地抵抗測定 保護継電器動作特性試験 保護継電器連動動作試験
	高圧キャビネット	損傷、腐食、変形、汚損、結露、施錠状態、異音、異臭、亀裂、接続箇所の過熱による変色、接地線の腐食・断線・外れ		1年 1年 1年 1年	接地線接続部のゆるみ 接続箇所のゆるみ 接触子の接触状態確認 開閉操作・表示確認	1年 1年 1年 1年	絶縁抵抗測定 接地抵抗測定 保護継電器動作特性試験 保護継電器連動動作試験
高圧受電設備	三相変流器	異音、異臭、損傷、汚損、接地線の腐食・断線・外れ		1年 1年	接続箇所のゆるみ 接地線接続部のゆるみ	1年	絶縁抵抗測定
	断路器	異音、異臭、過熱による変色、損傷、変形、汚損、腐食、亀裂、接地線の腐食・断線・外れ		1年 1年 1年 1年 1年	開閉操作確認 接触子の接触状態確認 操作機構部動作状態の確認 接地線接続部のゆるみ 接続箇所のゆるみ	1年 1年	絶縁抵抗測定 接地抵抗測定
	負荷開閉器	異音、異臭、過熱による変色、損傷、変形、汚損、腐食、亀裂、溶断表示、接地線の腐食・断線・外れ		1年 1年 1年 1年 1年	接続箇所のゆるみ 接触子の接触状態確認 操作機構部動作状態の確認 接地線接続部のゆるみ 開閉操作確認	1年 1年 1年 1年	絶縁抵抗測定 接地抵抗測定 保護継電器動作特性試験 保護継電器連動動作試験
	遮断器	異音、異臭、油量、ガス圧力、開閉表示、損傷、変形、汚損、亀裂、漏油、過熱による変色、腐食、接地線の腐食・断線・外れ		1年 1年 1年 1年 1年	開閉操作確認 接触子の消耗度合いの確認 操作機構部動作状態の確認 接地線接続部のゆるみ 接続箇所のゆるみ	1年 1年 1年 1年	絶縁抵抗測定 接地抵抗測定 保護継電器動作特性試験 継電器連動動作試験

対象	項目	月次点検【1回／月】		年次点検			
		点検箇所、ねらい	試験・測定	周 期	点検箇所、ねらい	周 期	試験・測定
高圧受電設備	計器用変成器	異音、異臭、損傷、汚損、亀裂、過熱による変色、溶断表示、接地線の腐食・断線・外れ		1年 1年	接続箇所のゆるみ 接地線接続部のゆるみ	1年 1年	絶縁抵抗測定 接地抵抗測定
	高圧カットアウト	異音、異臭、損傷、汚損、亀裂、腐食、過熱による変色		1年 1年	接続箇所のゆるみ 接触子の接触状態確認	1年	絶縁抵抗測定
	変圧器	異音、異臭、油量、過熱状態、損傷、変形、汚損、亀裂、腐食、接続箇所の過熱による変色、漏油、振動、付属装置の動作状態・取付状態、接地線の腐食・断線・外れ	低圧電路の漏洩電流測定	1年 1年 1年 1年 1年	吸湿防止剤の変色 接続箇所のゆるみ 接地線接続部のゆるみ 付属装置各部の点検（機能及び状態） 内部確認	1年 1年	絶縁抵抗測定 接地抵抗測定
	進相コンデンサ直列リアクトル	異音、異臭、過熱状態、ふくらみ、損傷、汚損、亀裂、腐食、漏油、変色、接地線の腐食・断線・外れ		1年 1年	接続箇所のゆるみ 接地線接続部のゆるみ	1年 1年	絶縁抵抗測定 接地抵抗測定
	避雷器	異音、異臭、損傷、汚損、亀裂、過熱による変色、接地線の腐食・断線・外れ		1年 1年	接続箇所のゆるみ 接地線接続部のゆるみ	1年 1年	絶縁抵抗測定 接地抵抗測定
	高圧母線等	異音、異臭、損傷、汚損、過熱による変色、支持物の損傷、汚損、亀裂、脱落		1年	接続箇所のゆるみ	1年	絶縁抵抗測定
受・配電盤	指示計器等	異音、異臭、損傷、汚損、表示状態	電圧、負荷電流測定	1年	端子部ゆるみ		
	開閉器等	異音、異臭、過熱による変色、損傷、汚損、亀裂、腐食		1年	接続箇所のゆるみ	1年	絶縁抵抗測定
	低圧配線等	異音、異臭、損傷、汚損、過熱による変色		1年	接続箇所のゆるみ	1年	絶縁抵抗測定
	保護継電器	異音、異臭、損傷、汚損		1年	接続箇所のゆるみ	1年 1年	保護継電器動作特性試験 保護継電器連動動作試験
	接地装置	接地装置の損傷・汚損・腐食、接地線の腐食・断線・外れ		1年	端子部ゆるみ	1年	接地抵抗測定
構造物等・配電設備	キュービクル、構造物等	損傷、変形、腐食、雨漏り、雨雪侵入、小動物侵入の有無、施錠状態、保護柵の損傷・腐食、照明設備、整理・整頓、消火設備の状態、標識・表示					
	配電設備	電線等の高さ・他物との離隔距離、損傷、たるみ、端末処理部の損傷・亀裂・汚損、過熱による変色、支持物等の損傷、汚損、腐食、たるみ、ゆるみ、傾斜、腐朽、脱落、外れ、異物付着、腐食、亀裂、支持点間隔、敷設部の無断掘削、接地線の腐食・断線・外れ		1年 1年	ハンドホールの浸水、地盤沈下の影響 接地線接続部のゆるみ	1年 1年	絶縁抵抗測定 接地抵抗測定

対象	項目	月次点検【1回／月】		年次点検		
		点検箇所、ねらい	試験・測定	周 期	点検箇所、ねらい	周 期 試験・測定
負荷設備	低圧機器	異音、異臭、指示状態、損傷、汚損、接地線の腐食・断線・外れ		1年	接続箇所のゆるみ	1年 1年 絶縁抵抗測定 接地抵抗測定
	低圧配線等	異音、異臭、損傷、汚損、過熱による変色		1年	接続箇所のゆるみ	1年 絶縁抵抗測定
	開閉器等	異音、異臭、過熱による変色、損傷、汚損、亀裂、腐食		1年	接続箇所のゆるみ	1年 絶縁抵抗測定
	接地装置	接地装置の損傷・汚損・腐食、接地線の腐食・断線・外れ		1年	端子部ゆるみ	1年 接地抵抗測定
蓄電池設備	蓄電池	損傷、汚損、変形、腐食、固定状態、液量、漏液、沈殿物、色相、極板・セパレータの湾曲	電圧測定	1年 1年 1年	耐酸塗料のはくり床面の腐食、損傷 接続箇所のゆるみ 触媒栓の有効期限	1年 1年 1年 電圧測定（セルごと） 比重測定 液温測定
	充電装置等	異音、異臭、損傷、汚損、変形、腐食、指示状態、接地線の腐食・断線・外れ		1年 1年	接続箇所のゆるみ 接地線接続部のゆるみ	1年 絶縁抵抗測定
非常用予備発電装置	原動機関係	損傷、汚損、変形、腐食、外れ、固定状態、油量、水量、油漏、漏水、営巣、始動空気圧、漏気、蓄電池電圧、	始動試験	1年	機関主要部分の分解、点検	1年 1年 保護継電器動作特性試験 保護継電器連動動作試験
	発電機関係	損傷、汚損、変形、腐食、固定状態	始動試験	1年 1年	接続箇所のゆるみ 接地線接続部のゆるみ	1年 1年 1年 1年 絶縁抵抗測定 接地抵抗測定 保護継電器動作特性試験 保護継電器連動動作試験
	開閉器等	異音、異臭、過熱による変色、損傷、汚損、亀裂、腐食		1年	接続箇所のゆるみ	1年 絶縁抵抗測定
	蓄電池	損傷、汚損、変形、腐食、固定状態、液量、漏液、沈殿物、色相、極板・セパレータの湾曲	電圧測定	1年 1年 1年	耐酸塗料のはくり床面の腐食、損傷 接続箇所のゆるみ 触媒栓の有効期限	1年 1年 1年 電圧測定（セルごと） 比重測定 液温測定
	充電装置等	異音、異臭、損傷、汚損、変形、腐食、指示状態、接地線の腐食・断線・外れ		1年 1年	接続箇所のゆるみ 接地線接続部のゆるみ	1年 絶縁抵抗測定
	接地装置	接地装置の損傷・汚損・腐食、接地線の腐食・断線・外れ		1年	端子部ゆるみ	1年 接地抵抗測定
	キュービクル、構造物等	損傷、変形、腐食、雨漏り、雨雪侵入、小動物侵入の有無、施錠状態、保護柵の損傷・腐食、照明設備、整理・整頓、消火設備の状態、標識・表示		1年 1年	接続箇所のゆるみ 接地線接続部のゆるみ	

【備考】年次点検は、停電により設備を停止状態にして1年に1回以上実施します。